

第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】 施策一覧

施策									
No.	個別事業	事業内容	5年間の主な実施内容	市の評価	農業者の評価	市民の評価	課題	今後について	今後の展開
<b>(1)食と暮らしを支える多様な農業</b>									
1 直売所のさらなる活用									
①	直売所の利用の促進	市HPの活用等情報発信強化	①直売所用のぼり旗配布 ②いこいの森公園、JA直売所、での直売支援実施 ③市HPでの直売所情報提供	A	A	D	市民の皆さんに周知できるように、PR方法を検討する必要がある。	継続	地産地消の推進を図るうえで、今後も継続する。
②	公共施設等での販売機会の提供	公共施設での販売機会を提供し、市民の利便性や地産地消につなげる	①マルシェの実施 ②公共施設でのマルシェ開催広報	A				継続	地産地消の推進を図るうえで、今後も継続する。
2 地産地消の推進									
③	めぐみちゃんメニューの推進	めぐみちゃんメニュー事業の推進	・市内産農産物活用メニュー事業の実施。 ・マルシェの開催・めぐみちゃんメニュー専用HPでの情報発信	A	D	C	農業者の方にとって、販路の拡大となる方法を検討する必要がある。 ・規格外品の活用	継続	市内産農産物の周知・理解を今後も継続する。
④	学校給食との連携	栄養士と農業者の意見交換などの支援	①学校栄養士と農業者の連絡会を支援 ②市栄養士が、保育園～中学校まで共通メニューを実施 ③多摩小平保健所 栄養・食生活ネットワーク会議で栄養バランスのとれた食事の推進等について取組 ④市栄養士と連携し、めぐみちゃんメニュー事業の応募メニューの中から、学校給食で提供	A	D	A	学校給食へ登録が難しい(作付量)等が今後の課題となる	検討	この3年間、めぐみちゃんメニュー事業の応募作品から学校給食での提供する取り組みをしたが、年間を通して地場産農産物を多く取り入れる方法を学校栄養士と検討する必要がある。
3 販路の拡大と西東京ブランドの育成									
⑤	めぐみちゃんブランドの普及啓発	めぐみちゃんを活用し、農産物の普及啓発を行う	①めぐみちゃんメニュー事業を通じた広報 ②「市産農産物等活用推進事業費補助金」の実施 ③めぐみちゃんのぼり旗を配布	A	C		より広く周知するための、めぐみちゃんの活用方法を検討。	継続	市内産農産物の周知・理解を今後も継続する。
⑥	地域や商店街との連携	地域や商店街と連携した販路拡大等	①いこいの森公園の指定管理者、リサイクル市など市のイベント、との連携は実施 ・多摩六都でのイベントでの連携・畑の防災訓練で地域の自治会と連携。・「景観散策会」に地元商店街から講師派遣などの連携についてはイベントが中止となった	B	C	A	コロナ感染症の影響もあり、地域や商店街との連携があまりできなかった。	検討	イベントの実施内容について地域・商店街と検討が必要。
<b>(2)多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営</b>									
1 若い担い手や女性農業者の育成									
⑦	地元と連携した後継者育成	JAや東京都等と連携した後継者育成	①東京都フレッシュ&リターンセミナーや指導農業士制度を活用 ②認定農業者の経営改善計画において、家族、後継者を含めた農業経営計画策定を推進。 ③「農業後継者顕彰」事業	A	A		新規就農者の情報収集の検討	継続	担い手の育成を今後もすすめる。
⑧	農業者の交流機会の創出	若い担い手や女性農業者への情報提供の強化、支援策の検討	①青壮年部の総会出席や事業参加を通じた意見交換 ②農業委員会やJAを通じた女性農業者への情報提供 ③女性委員や若手農業委員との意見交換	B	D		定期的な若い担い手や女性農業者へのアプローチが必要	継続	担い手となる若者や女性農業者と連携策を今後も検討。
2 援農ボランティアの活用									
⑨	農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供	援農ボランティアと農業者のマッチングを行う	①体験実習農園にて援農ボランティア活動の実施。 ②市報掲載(援農ボランティアを広報周知) ③農業者へ援農ボランティアの活用の周知チラシを配付	A	D	D	援農ボランティアについての周知方法について	検討	農のアカデミー体験実習農園の実施方法について検討(援農につながる実施の仕方の工夫)
⑩	援農ボランティアのスキルアップ	「青空塾」修了者(援農ボランティア)のスキルアップを図る	①農のアカデミー事業の実施 ②援農ボランティアを対象に講演会や運営連絡会を実施した	A	D	D	農のアカデミー体験実習農園を活用してスキルアップ研究が主となっていた。	継続	担い手の育成を今後もすすめる。農業者の圃場に出向きスキルアップ研修を実施するなどの検討。
3 効果的な支援による農業経営意欲の促進									
⑪	認定農業者農業経営改善計画への支援	経営改善計画のフォローアップ検討	認定農業者(更新)へ改善計画書の事前配布	A			農業者が計画をたてる際の時間の確保	継続	意欲ある農業者への支援を今後も継続する。
⑫	新たな支援策の調査・研究	農業者への効果的な支援策検討	①(補助金)JAや農業者との意見交換、要望の反映に向けた調整を行った。 ②(補助金)都市農地保全プロジェクト補助金事業の手続きを継続 ③(補助金)自然災害に対応した支援準備	A	A			継続	意欲ある農業者への支援を今後も継続する。認定農業者補助金の内容の検討
⑬	営農支援事業の適正運営	JAの営農支援事業	「営農支援事業」をJAにおいて実施	A	A			継続	意欲ある農業者への支援を今後も継続する。

施策									
No.	個別事業	事業内容	5年間の主な実施内容	市の評価	農業者の評価	市民の評価	課題	今後について	今後の展開
<b>(3) 農地の保全と活用</b>									
1 生産緑地の保全									
⑭	農地の適正な肥培管理	農業委員会による農地の管理指導	①農地パトロール(農業委員会+都市計画課)、文書による指導実施 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力 ③苦情対応に農業委員と連	A	A		肥培管理の悪いところが固定されている。	継続	継続的に農地の肥培管理を行う必要がある。
⑮	生産緑地地区制度への対応	特定生産緑地や生産緑地の再指定等の推進	①特定生産緑地の周知について、JA等と連携 ②特定生産緑地の指定に際して、農業委員会が協力	A	A			継続	生産緑地再指定について、今後も継続
⑯	農地の貸借における仲介の仕組みづくりの支援	貸借円滑化法に基づく貸借への対応を検討	①農業者の要望、情報の集約 ②JAや農業会議等関係機関との連携、他自治体の情報収集を行う	A	B		貸借についての周知方法	継続	農地の保全と担い手の確保のためにも継続する。
2 多面的機能の発揮									
⑰	農業体験・交流型施設の活用	花摘みの丘、蔵の里などの施設を活用した取り組みの推進	①農業学習、イベントの開催 ②実習農園を設置	B	D	D	イベントの実施方法の検討	検討	花摘みの丘の実施について他イベントとの連携実施を検討。蔵の里については今後も継続
⑱	災害協力農地の拡大	災害協力農地の拡大を図る	①農業者への情報提供、JAとの連携 ②補助金を活用し、防災兼農業用井戸を設置した。農地を災害時協力農地となるよう担当課と連携	B	A	A	農業者への災害時協力農地の拡大の周知方法。	継続	災害協力農地について、市民へのPRを継続的に行う必要性あり
<b>(4) 農業を通じた交流</b>									
1 各種イベントの実施									
⑲	農業景観散策会の実施	農業、農地のある景観を活かした事業の展開	「花摘みの丘」での景観散策会を実施(3か年中止)	C			イベントの実施方法の検討	検討	花摘みの丘の実施について他イベントとの連携実施を検討※
⑳	市内産農産物活用事業の実施	市内産農産物を活用したイベント実施	・農のアカデミーにて収穫祭を実施。市内農産物を使用した料理教室(消費者センター)開催の支援を行った。コロナのため3か年中止 ・ふるさと納税に市内産農産物を使用 農のアカデミー体験実習農園や市内農業者の農地で、親子を対象にした農業体験を実施。都市農業のPRと農業への理解を促進(2か年中止)	C			イベントの実施方法の検討	検討	ふるさと納税に市内産農産物を使用することについては販路拡大として継続。市内産農産物活用についてはイベント実施の仕方の検討。(市民や団体との連携などの検討を行う)※
㉑	親子で野菜作りにチャレンジの実施	親子参加型イベントの実施	農のアカデミー体験実習農園や市内農業者の農地で、親子を対象にした農業体験を実施。都市農業のPRと農業への理解を促進(2か年中止)	B	D	D	農業者やJAとの連携検討	継続	継続(体験内容については要検討)※
㉒	農業普及啓発プロジェクトの活用	ファームカー、イメージビデオ、イメージソング等の活用 アスタビジョンを使用した農業PR映像	①イベント(マルシェ)において、パネルやちらしを利用し、都市農業をPRした ②ファームカーによる直売の支援、広報活動を行った	A	D	D	周知方法の検討	継続	都市農業の普及啓発のために継続。
㉓	めぐみちゃんメニューの推進	めぐみちゃんメニュー事業の推進	①市の取り組みと連携したマルシェを開催(事業農業者、商工業者のPRパネルの作成) ②ツイッターを利用した情報発信	A	D	C	農業者の方にとって、販路の拡大となる方法を検討する必要がある。	継続	市内産農産物の周知・理解を今後も継続する。
㉔	緑のアカデミー事業の実施	緑のアカデミーを通じた植木農業振興	・緑のアカデミーイベントの実施方法を検討、東京都農業祭にてファームカーを使用し、市内産植木のPRを行う(3か年中止)	B	D	D	イベントの実施方法の検討	検討	イベントの実施内容について検討が必要。多くの市民の方が参加可能なもの等検討。※
2 農商工・産学公連携の推進									
㉕	農業と異分野との連携促進	飲食や福祉・健康・教育と農業の連携推進	①めぐみちゃんメニューでの農福連携 ②マルシェでの農業者、商業者のPR ③他課との連携	B			連携方法の検討 規格外品の活用	検討	事業としては継続だが、農福連携等のように推進するか検討。
㉖	東大生態調和農学機構との連携	東大生態調和農学機構との連携を図る	連携の内容等について情報収集を行う。	C			情報収集のみでよいのか	検討	情報収集のみにとどまらないやり方の検討。
3 市民農園の新しい展開と農業体験農園の推進									
㉗	市民農園の新しい展開	市民農園の開設支援や利用料の見直し等	①農業者に向けた市民農園開設の広報実施 ②農業者の市民農園開設支援(補助金)	A	D	D	農業者開設の市民農園への支援について周知	継続	農業を通じた交流のため、農を通じた体験の場を支援するため継続。
㉘	農業体験農園の推進	体験農園への支援実施	①市報やHPで体験農園を広報 ②開設時の支援制度(補助金)調整	A	D	C	体験農園開設時の支援についての周知	継続	農業を通じた交流のため、農を通じた体験の場を支援するため継続。

※ イベントについては内容の精査を行う

市の評価  
A: 取組内容が計画に合致し、施行された  
B: 取組みに改善の余地がある  
C: 取組みが不十分  
D: 未実施

農業者、市民の評価  
A: 満足度も重要度も高い  
B: 重要度が高く、満足度が低い  
C: 満足度が高く、重要度が低い  
D: 満足度も重要度も低い